

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑 佐賀		
所在地	佐賀県佐賀市兵庫町大字若宮2125-1		
自己評価作成日	令和6年 1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年2月14日	外部評価確定日	令和6年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな風景の中で、皆様思い思いの時間を過ごされています。また、地域の方々との結びつきも強く、年間で開催されている行事にも積極的に参加させて頂いております。経験豊富なスタッフと、時には助け合いながら楽しく過ごせるように、支援を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佑紀苑の周囲は田園に囲まれ交通量も少なく静かな場所に位置し利用者は経験豊富な職員と共にのんびりと過ごされている。社長は市内にグループホームを作りたいと町民の理解と賛成を得て実現し創立20周年を迎える。他に佐賀市、白石町にグループホーム、有料老人ホーム、デイサービスを運営されている。町内会に参加し区役にも出来る限り参加し情報交換、交流も出来ている。開所当時から利用者や職員もあり、職員や家族の信頼に繋がっている。管理者は「笑って欲しい」「清潔にする事」「スタッフのコミュニケーションを良くする事」を大事にしており職員も理解している。ホームのイベントでは利用者が面白く、楽しめるように職員が工夫され笑いが絶えない。玄関には利用者が花を植えたプランターに園児の絵やコメントの立て札が訪問者を楽しませてくれる。家族からテントの提供があり行事の際に役立っている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届きやすい場所に理念を掲示し、「安らぎと笑いのある楽しい生活」が送れるようなケアを心がけている。	理念は開所時に職員と共に作成されたものであるが、途中「笑い」は大切であることから「地域の中の一人としてやすらぎと笑いのある楽しい生活」とし、事務所に掲げられ、常に笑顔を意識しケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される、芋掘りや柿の実収穫などの年間行事には、積極的に参加するようにしている。	町内会に参加しているが、職員2人が地元の者であり行事の情報は得られている。また自治会長はじめ地域の方の理解と協力がある。区役にも出来る限り参加し、利用者が参加する時もある。町内の芋掘、柿の収穫の案内を頂き、柿は干し柿作りを楽しまれる。敬老会には幼稚園児のプレゼントや、運動会には町民の参加がある。夏祭りには参加者のために屋台を出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の場で、ご理解とご協力を頂いている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回のペースで開催し、活動への取り組みや状況等についての報告を行っている。そこで得た様々な意見や評価をもとに、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議が開催され利用者、家族、地区の代表等多くの参加がある。利用者の状況や活動報告と共に意見交換がある。子供110番の旗や事業所周围の植木の伐採等相談し、各分野で出来る事から実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方には運営推進会議にご参加いただき、情報の共有や意見交換を行っている。	困り事や相談事は運営推進会議の中で改善されている。行政から研修の案内や情報を得られる事もあり必要に応じて参加されている。地域包括支援センターからは認知症について、介護等に関するパンフレットの配布があった。いつでも相談出来る環境である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加やミーティングの場を利用した勉強会を定期的に行い、身体拘束についての理解を深めている。また、目に付く場所に資料を掲示し、身体拘束につながらない為のケアに向けた取り組みを実践している。	外部での研修にも参加し、事業所では事例を挙げ虐待防止と共に研修が行われる。どうしても身体拘束にならないか職員と話し合い、取り組みや工夫をされている。言葉遣いにも気を付けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、研修への参加や勉強会を実施している。資料を掲示し、職員一人ひとりが虐待や不適切なケアにつながらない為の取り組みを意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については研修の場で学ぶ機会があり、必要に応じて活用できるような支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類等を用いて説明を行い、入居に伴う不安や疑問点がないかしっかりと確認している。利用者、ご家族等のご理解、納得を頂いた上でのご署名をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者やご家族の方にもご参加いただいている。そこで頂いたご意見やご要望は出来る限り尊重し、今後に役立てるように努めている。	意見箱は玄関に置いてあるが、要望や意見は面会や電話で情報を得ている。運営推進会議の際に家族から特別養護老人ホームとの料金の比較等の質問がある。月1回「苑だより」を発行し利用者の生活の様子や行事の写真を家族に送られ、笑顔で楽しんでいる様子に喜ばれ、安心されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の日頃のコミュニケーションやミーティングの機会に話し合いの場を設け、意見や提案を反映しやすい環境作りを進めている。	月1回のミーティングの際には職員一人ひとりの意見の聞き取りをしている。職員の入れ替わりは少なく、永年勤続の方が半数在職され家族も頼りにされている。週1回医師との情報交換が行われる。利用者の必要に応じた電動ベッドの導入や勤務時間の調整等話合いで改善されている。急な休みの時も管理者が支障のないように変更されている。職員のコミュニケーションも良く、休みも多く働き易い事業所である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望表を作成するなど、職員一人ひとりの要望に合わせて働きやすいように職場環境や労働条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が来た時は職員に参加を呼び掛けている。また、研修終了後もミーティングと併せた勉強会を実施することで、職員のキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の参加で他施設の同業者と交流する機会があり、グループワークなどを通して情報や意見を交換することでサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望等があれば本人の気持ちに出来るだけ寄り添い、安心して過ごして頂けるように努めている。ご希望があれば体験入居を行い、納得された上でサービスの利用を開始して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様、御家族様の気持ちにも寄り添い、双方に納得して頂くことで安心して過ごしてもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意見やご要望をもとに本人に合ったサービスを提供することで、安心した生活を送って頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いをして頂くなど、個々の能力に応じて残存機能を活かしながら、職員と共に助け合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などを通して定期的に近況報告や情報共有を行い、ご本人やご家族の方が安心して生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方のご理解・ご協力を頂きながら、外出・外泊等の支援を行っている。	面会は自由で希望が多い。以前はお茶の接待をしていたがコロナ禍の為必要に応じ紙コップを使用している。職員は利用者の面会者を把握している。現在面会は予約を取り短時間で行われている。管理者は「会ってほしい、家族の心情は大事であり、元気になれるので」と多くの面会を望んでいる。正月は利用者、家族の希望で自宅で過ごされる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や状態を把握し、安心して楽しく過ごして頂けるように、利用者同士の関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もご家族の方と連絡を取ったり、お便りを出したりと関係性が途切れてしまわないように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人やご家族様からの希望やご意向をお聞きし、それぞれに合ったケアプランを作成している。	利用者に何をしたいかと問い合わせるとビール、コーラを飲みたい等飲食の要望が多い。元気な方は家に帰りたい、手伝いをしたい等の希望があり、利用者の思いに沿い出来る範囲で要望に答えている。意思疎通の出来ない方のつぶやきや行動の変化に気を付け、その人に合った声掛けをし、申し送りノートに記録され、介護計画に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族の方からの情報をもとに、暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なバイタルチェックや表情の変化などで、一人ひとりの状態や1日の過ごし方を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から状態の把握に努め、異常や変化があった場合は、その都度、朝の申し送り時や、または月に1回のミーティングの際に情報を共有し、話し合いを行っている。また、看護師や医師からケアに関する注意点をご指導頂くなどして、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議に家族の参加もある。介護計画作成には家族の要望や医師の意見を取り入れ、その人に合った計画を作成している。期間内に変化が出た場合には利用者のその時の思いに寄り添い変更され、家族にも伝えられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の心身の状態や、バイタルサインなどの情報はもちろん、日常会話の内容やその時の様子などを個別に記録し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や気分の変化を把握し、御家族と連携しながら、その時に合った柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動に参加したり、散歩の際にご近所の方と立ち話をしたり、お花や野菜を頂いたりと交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、ほとんどの方が訪問診療を利用されており、急変時はすぐに対応して頂けるような関係を構築出来ている。かかりつけ医を受診されている方は、電話や手紙にて状況を報告し、主治医から適切な治療やアドバイスを受けられるようにしている。	かかりつけ医や他科の受診は基本家族であるが必要に応じて職員の同行がある。協力医とは電話での相談も出来、医師と職員はコミュニケーションも良く24時間対応であり安心である。歯科は訪問であり義歯の調整や口腔内のチェックが行われる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者の状態把握に努め、急変時はもちろんのこと、少しの変化があった場合も主治医や看護師と連携し、速やかに適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や面会時には、苑でのこれまでの生活状況や心身の状態など、病院関係者と積極的な情報提供や意見交換を交わすことで、コミュニケーションや関係づくりを深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族には入居時に、重度化した場合の対応に係る指針やターミナルケアの指針を説明し、同意を得ている。本人の状態に変化があった場合は、担当者会議にて現状の報告を行うとともに、多職種と連携して今後の方針についての話し合いを行っている。	入居時に重度化や終末期の説明をされ同意を得ている。看取りの経験もされており、勉強会も行われている。家族の要望に事業者の出来る事を話し合い寄り添っている。職員の体制は出来ている。容態の変化があった際には医師とグループラインで状況を共有しており、駆けつけられ対応されて心強い。職員はエンゼルケアをしてお見送りをされている。家族は泊まりも出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加や、担当医・看護師からの指導を受ける事で、職員間での知識や情報を共有し、迅速な対応が出来るように努めている。また、急変時マニュアルの掲示も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回のペースで消防訓練と災害訓練を実施し、地域の方々にも参加して頂くことで、協力体制を築いている。	年2回消防訓練と災害訓練が自治会長、住民、利用者も参加して実施されている。地区の避難場所へ移動の訓練も行われ、経路や所要時間の確認も出来ている。夜間想定訓練も行い問題点、改善点また今後事業所で出来る事を検討されている。地域住民である職員がおり、緊急の時は駆けつけてくれる。備蓄、雨具、電池、救急箱の準備は出来ている。家族に避難場所は伝えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが自分らしく安心して過ごすことが出来るよう、丁寧な言葉かけや対応を行っている。	外部、事業所で接遇の研修が行われている。常に笑顔で接するように心掛け言葉遣いにも大切にしている。声掛けの際には声のトーンやその人に合った言葉遣いで、意思疎通の出来ない方には不安感を与えないように気を付けられている。佐賀弁も使い利用者の理解が早い。職員の言葉遣いや気になる行動については管理者から指導を受け改善されている。重要書類の管理、保管、個人情報についても職員は理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と頻りにコミュニケーションをとることで、会話の中から本人の希望や思いを引き出し、自己決定しやすいような言葉かけや環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気分や体調に配慮し、無理なく自分のペースで過ごすことが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、美容師の方に散髪をお願いしている。また、行事等で外出される際には、ご自分で着ていく洋服をお好みに選んで頂くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には季節ごとに旬の食材を取り入れたり、また、調理や下準備を手伝って頂くことで、少しでも食事を楽しんでいただけるように取り組んでいる。	献立は会議の中で利用者、職員がリクエストし、長く勤めている職員の中に栄養士がおり栄養バランスを取り入れ作成している。当番の職員は献立表を参考に買い物し事業所で調理されている。季節食、希望食も取り入れ、利用者は出来る範囲で手伝いをされ楽しみと励みになっている。食事は職員も利用者の席に着き介助しながら同じものを食べ会話しやすい食事時間である。栄養士がいる事は頼りになり、味つけ、盛り付けも良く利用者、職員とも美味しいと評判である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分摂取量は毎食ごとに記録し、食生活の把握に努めている。その上で、一人ひとりの状態に合わせて食事形態を工夫し、バランスの取れた食事出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアや義歯洗浄にて、口腔内の清潔保持に努めている。また、週に1回歯科医の先生がお見えになり、義歯の消毒を行ったり、口腔内の状態を診て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握することで、早めのトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを利用しその人に合った誘導をしている。利用者の動きの様子で声掛けをしている。車椅子で自由に移動される方もある。夜間は人体センサーで見守っている。排便については医師の指示にしたがっている。衣類の上げ下げの出来る方もあり身繕いは手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取、適度な運動などで便秘の予防に取り組んでいる。また、慢性的な便秘の方には、担当医と相談し、様子を見ながら下剤にて調節を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの気分や体調に合わせて、入浴を楽しんでいただけるように支援している。入浴が難しい場合は、状況に応じて足浴や清拭を実施するなど、清潔の保持に努めている。	基本3回であるが毎日入浴される方もある。入浴剤、季節湯の対応もある。利用者の体調や気分に合わせて足浴や清拭もある。ゆっくり話が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理なく自分のペースで過ごすことが出来るよう、その日の気分や体調に応じて言葉かけを行い、気持ちよく休んで頂けるような環境作りなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の変更や新しい薬の処方があった場合には、申し送りやスタッフ間と情報を共有し、服薬後も状態の観察・確認を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付けなどの家事の手伝いをして頂いたり、そうめん流しなどの季節ごとの行事やイベントを開催することで、役割や楽しみを持たれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のご希望やご意向に添って、外出を楽しんでいただけるような支援を行っている。天気の良い日には散歩に出かけたり、地域の幼稚園で催しがある時はプレゼントを渡しに行ったりと、それぞれが思い思いの外出を楽しんでいる。	季節に合わせてドライブの計画があるが、コロナ禍の為現在は外出の制限しており、下車する事なく出掛け、ホームに戻り庭で弁当を楽しまれる。ホームの周囲は車の通りも少なく、天気の良い日は散歩に出かけ季節を感じ、気分転換や日光浴、地域の方と会話を楽しまれる。家族の協力での外出、外泊される事もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いなどの現金は御家族の方より預かり、保管させて頂いている。必要があれば、本人の希望に応じてお金を所持したり、使って頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚の方から電話があった際には、本人に代わり、話をして頂けるように支援している。また、贈り物等があった場合は、お礼の電話を一緒にかけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが、居心地の良い空間で安心して過ごすことが出来るような環境づくりに努めている。また、リビングには花や壁画を飾ったりと、その時その時の季節を感じて頂けるような工夫をしている。	リビングは日当たりも良く明るい。掃除は職員と利用者の出来る方と共に行われる。幼稚園児の手作りの作品とお便りや利用者の作品が掲示されている。職員は台所から利用者の様子を見ながら調理され、美味しい匂いも感じられる。今日のメニューも掲げてある。昼食後は居室で休まれる方やリビングでテレビを見る方等自由に過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるよう、席の配置を変えるといった工夫を行ったりと、ゆっくりと自分の時間を過ごして頂けるような環境づくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や慣れ親しんだ物を居室内に配置したり、また、御家族の写真を飾ったりと、自宅にいるような雰囲気の中で安心して過ごして頂けるような工夫を行っている。	居室入口には名前が掲げられ、写真や絵が目印になっている。居室の掃除も職員と利用者の出来る方と行われ、行き届いており、臭いも感じられない。電動ベットを使用される方もある。整理タンスは備え付けである。馴染みの物の持ち込みは自由であり多くの持ち込みはないがテレビ、写真、色紙等の作品があり利用者が安心して過ごされるように配置され整理整頓されている。居室にはホームでの生活の様子の写真がアルバムに収めてあり、家族が何時でも見れるようにされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが持っている力を活かして自立した生活が出来るよう、安全な環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない